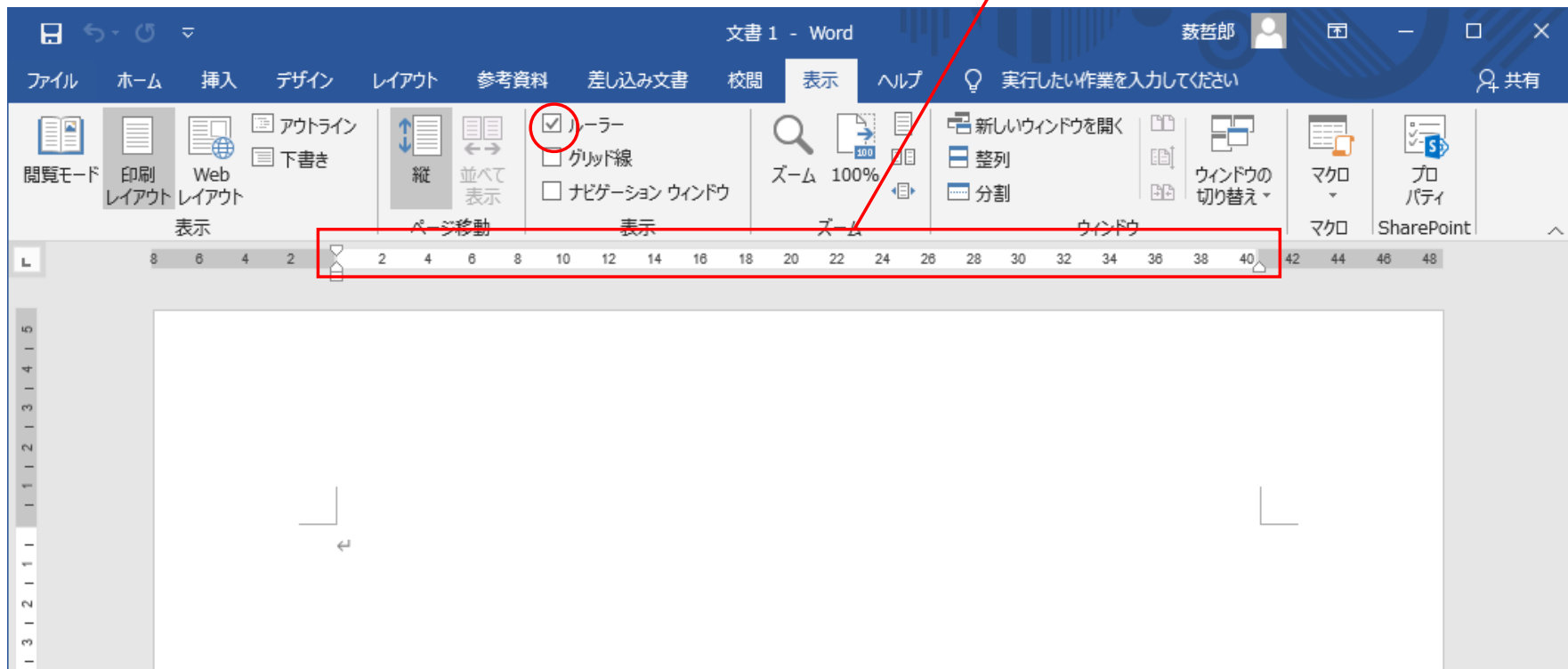


デフォルト設定の変更

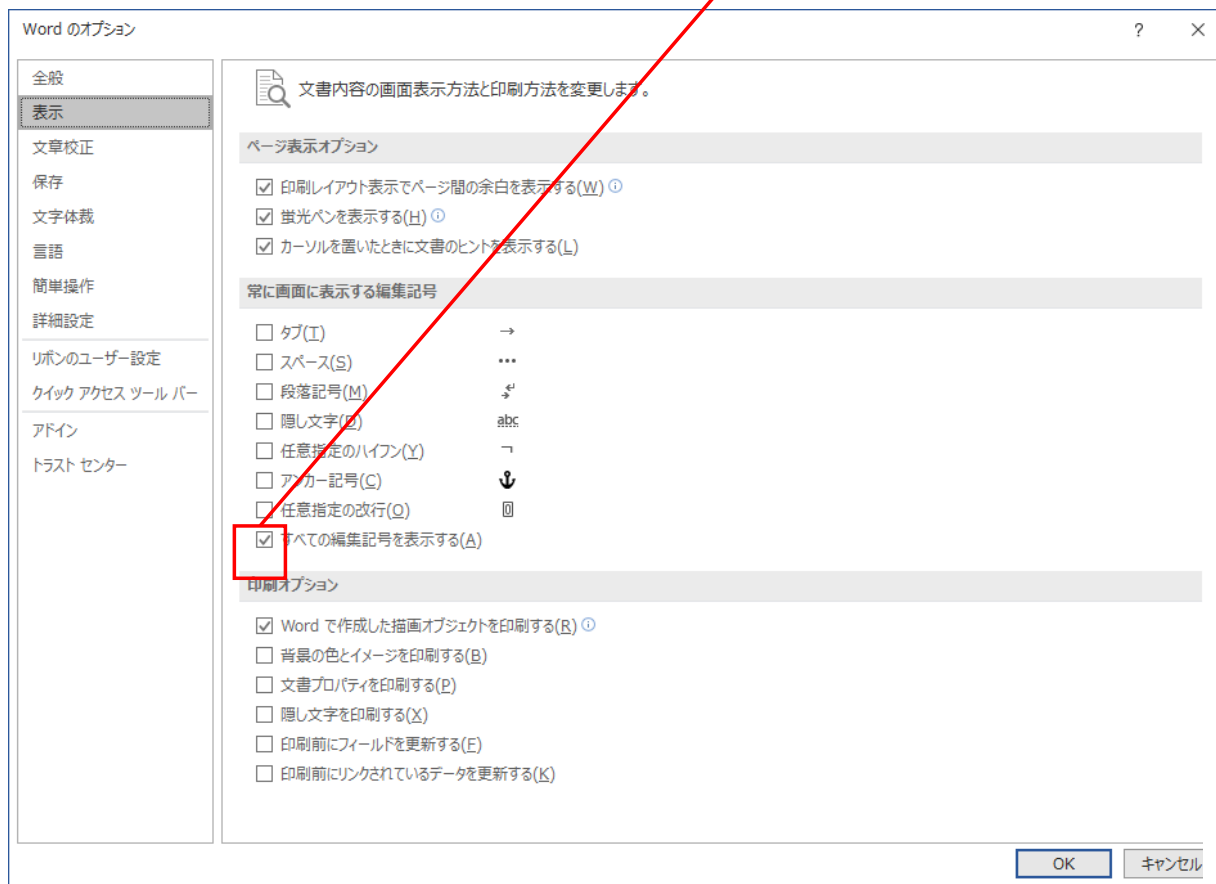
表示 → ルーラー にチェックを入れる

ルーラーが表示される



ファイル → オプション → 表示

チェックを入れる



全角空白、半角空白、タブ、
字下げ、インデントのどれを
使っているかが明白になる。

あい う
あいうえお う
あいうえお

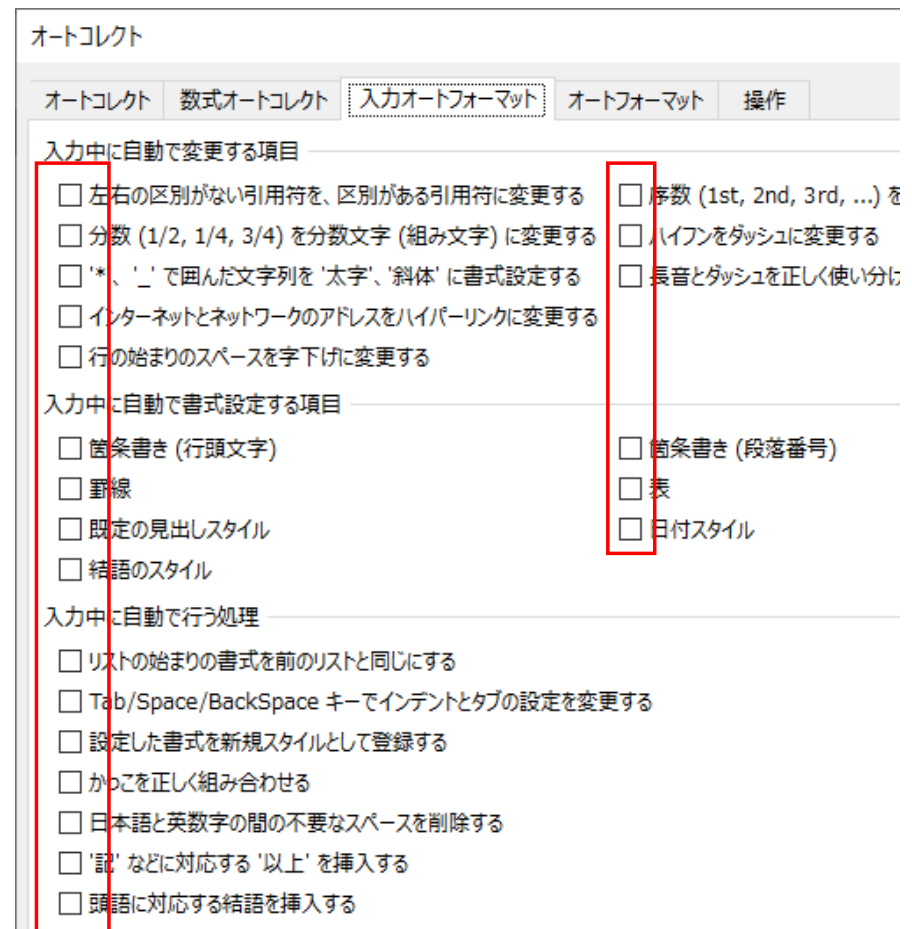
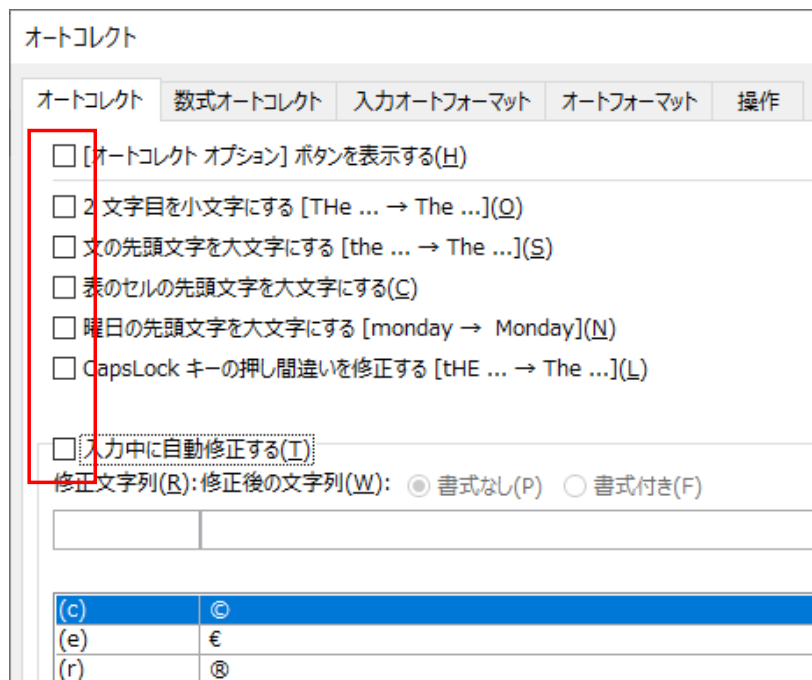
チェックなし
のとき

□□□ -- あい → う ←
□あいうえお ←
あいうえお

チェックあり
のとき

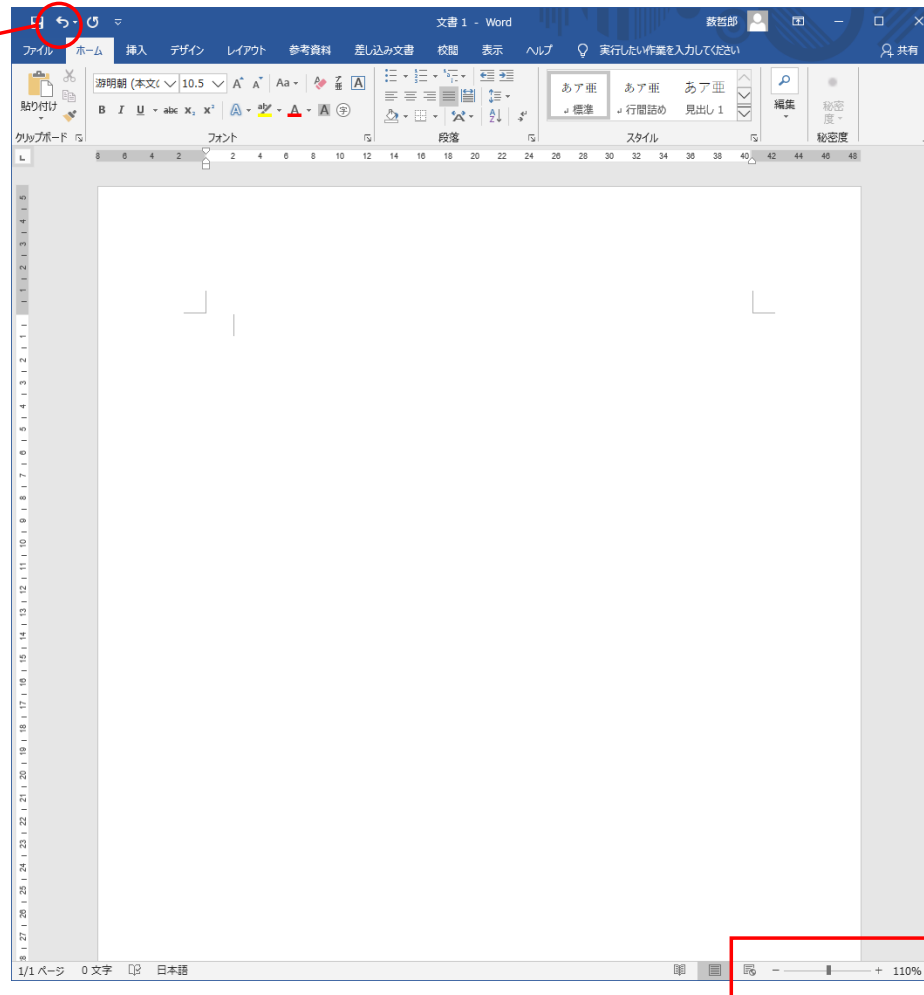
ファイル → オプション → 文章校正 → オートコレクトのオプション

オートコレクトと入力オートフォーマットは
チェックを全て外す



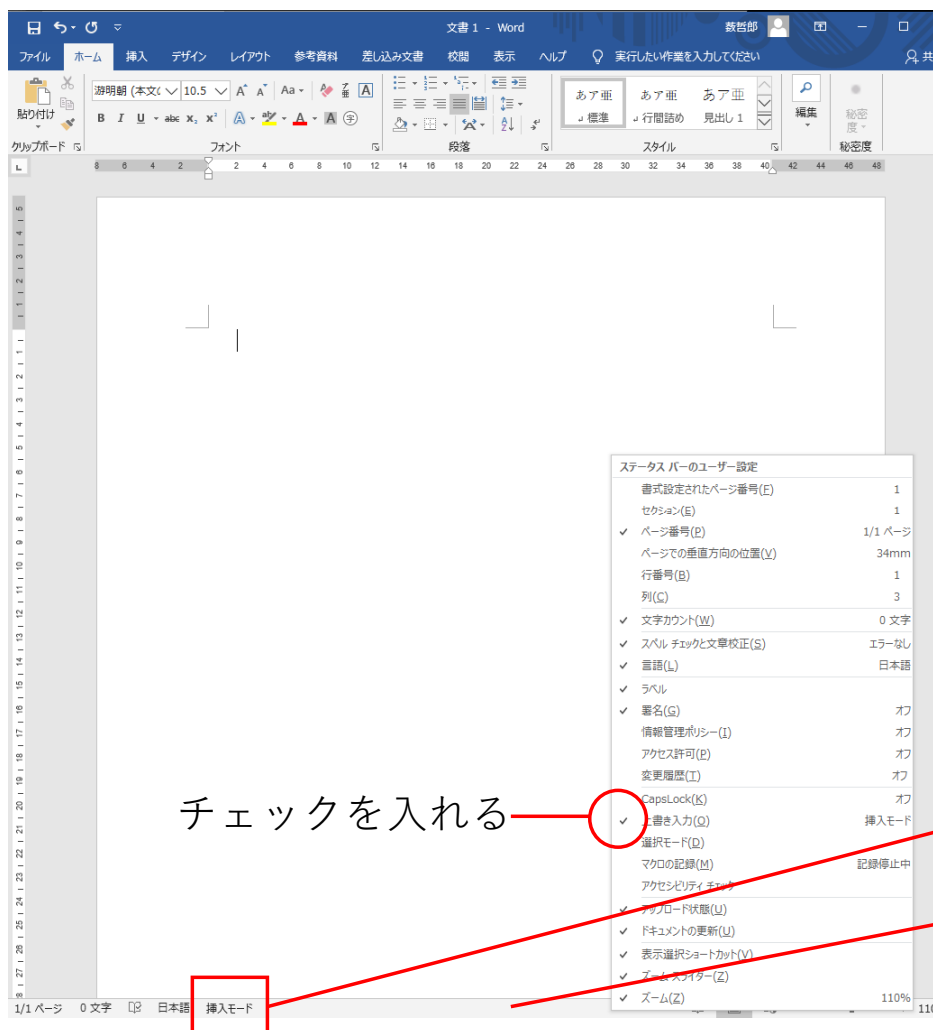
まず、覚えるべきこと

アンドウ



表示倍率

Word のキー操作



上書きモードとインサートモードがある。上書きモードは使わない。

Insertキーを押すと、トグル動作で切り替わる。知らないうちに押してしまうことがある。

チェックを入れる

モードを表示させる方法

ここで右クリック


Wordの基本概念

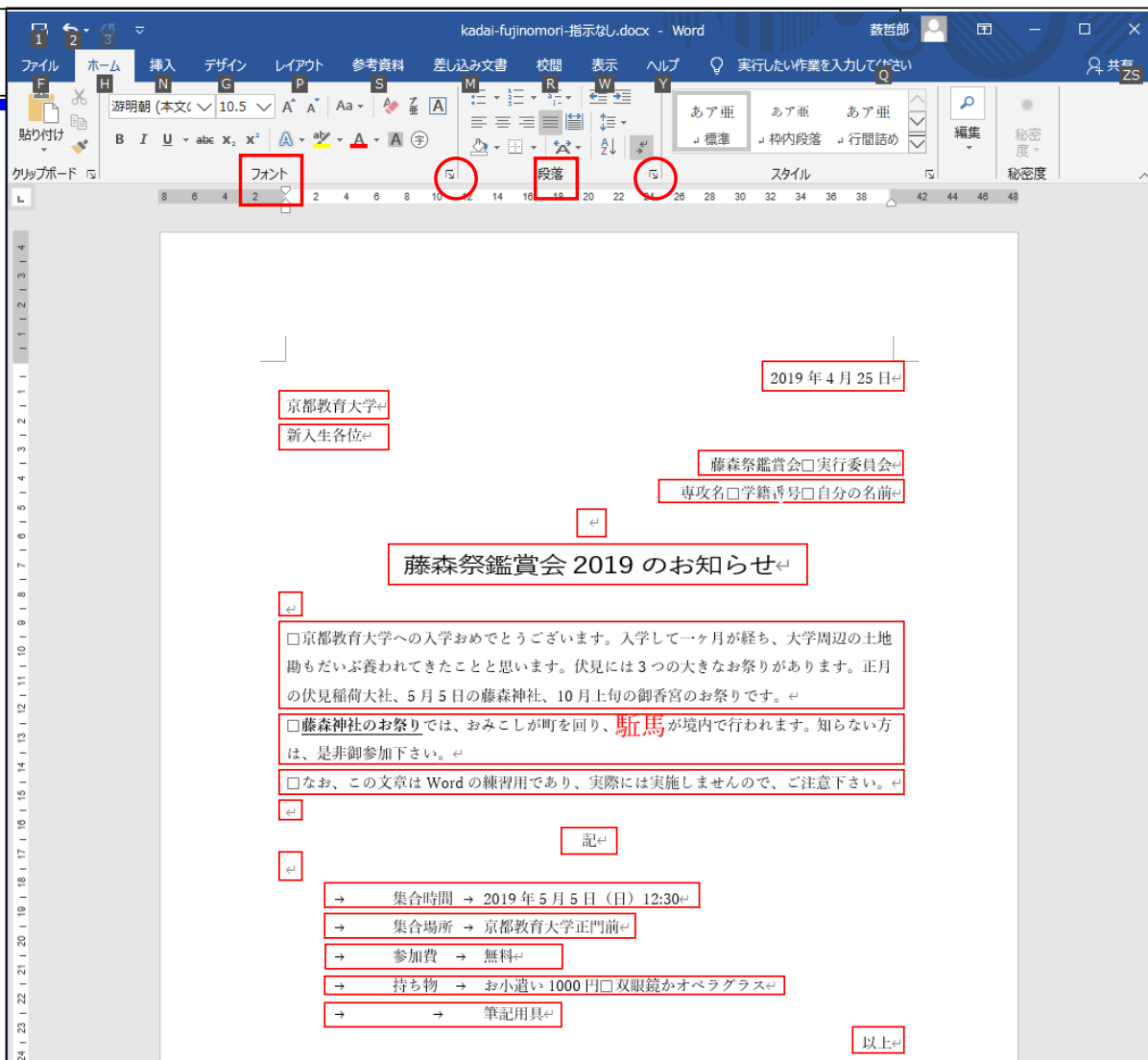
文字単位で設定することと
段落単位で設定することがある

段落とは改行記号から改行記号ま
での間。右の赤枠が1つの段落

文字単位で設定することは
「フォント」

段落単位で設定することは
「段落」

右下の  を選択すると詳しい
設定画面に行く



タブの概念

Tab キーを押すと tab 文字が 1 個挿入される。

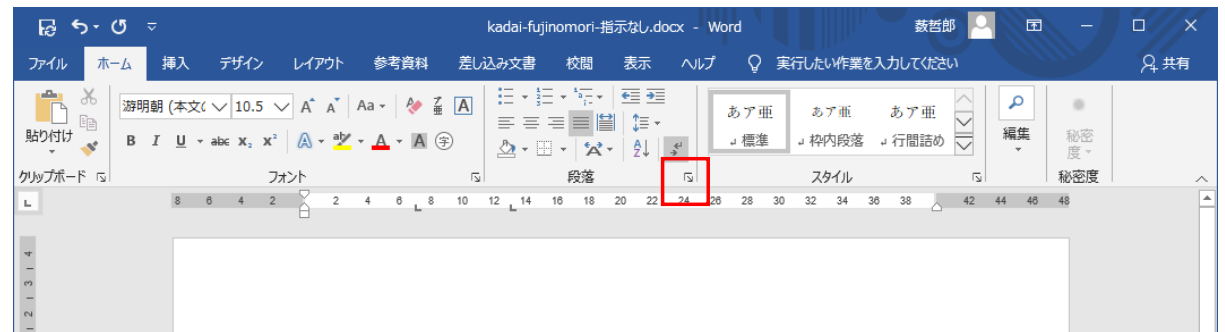
Tab 文字は決まった幅を持たない
次の Tab 位置まで送る

Tab位置のデフォルトは 4, 8, 12, … 文字目。

Tab位置は段落ごとに設定される

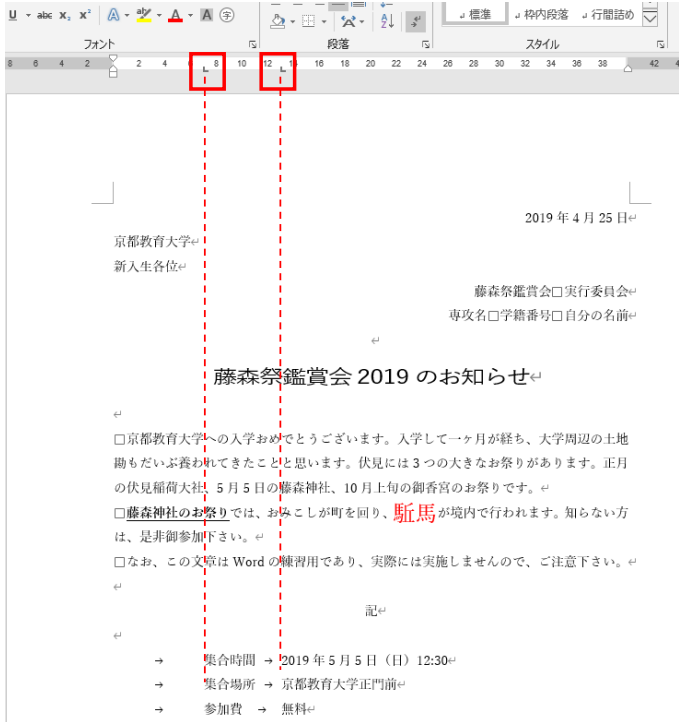
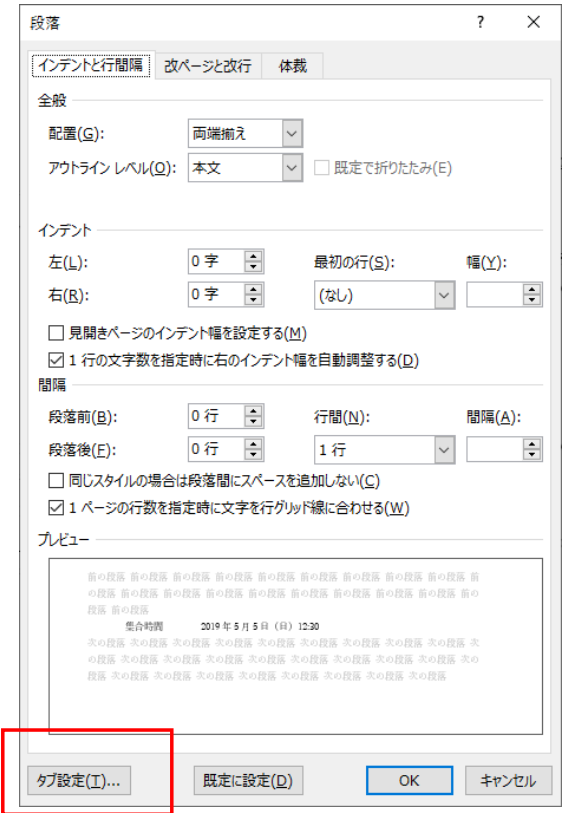
ぶら下げを設定している場合、自動的に2行目の左端がタブ位置に追加される

独自のTab位置の設定法



独自のTab位置を設定すると
デフォルト値は無効

ルーラーに表示ができる。



練習

☆ タブとフォント の練習を行う

やり方

練習 (pdf) に指示が書いてある。印刷しておくともやりやすい

ひな形ファイル (docx) を「右クリック」→「対象をファイルに保存」でダウンロードする。「ダウンロード」というフォルダに収められる。

やり方の動画を見る

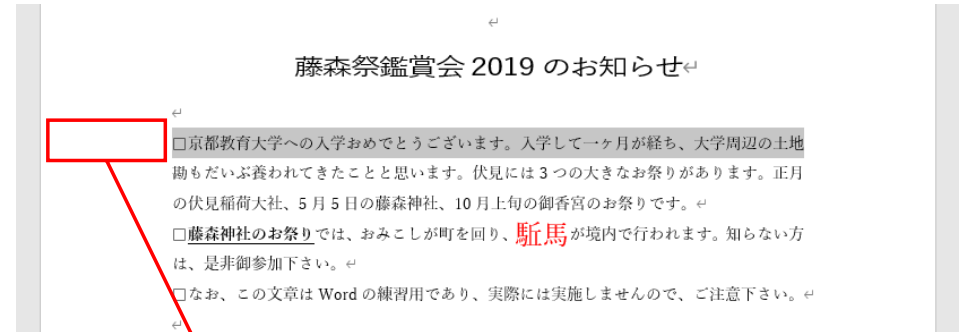
練習 (pdf) の指示に従って作業する (上半分のみで良い)

Tab の入り方 (gif) はどこに Tab を入れるかのヒントが書いてあるので必要なら見る

操作の基本概念

◆ 文字単位の設定をするときの範囲指定

- マウスでドラッグ
- シフトを押しながらカーソル移動キー
- 紙面の左余白部分をクリックすると 1 行選択



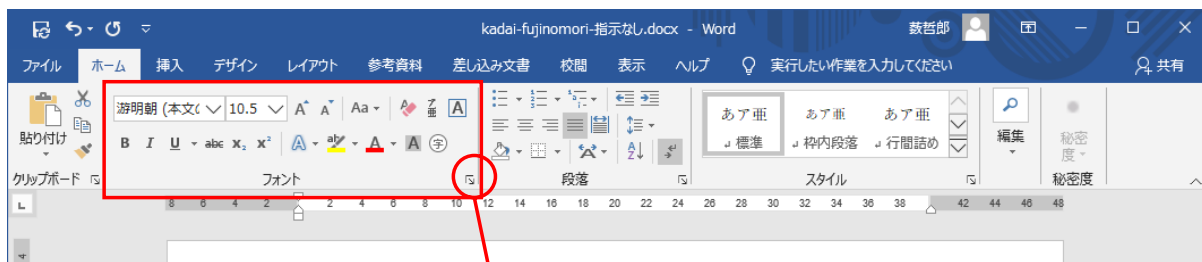
ここをクリックすると 1 行選択

◆ 段落の設定をするときの範囲指定

1 つの段落を対象とするときは設定したい段落の中にカーソルを置く。

複数段落を選択するときは段落の改行マークを含めて反転表示にする。

文字単位の設定項目



より詳しい設定をするとき
クリックするとフォント用ウィンドウが開く

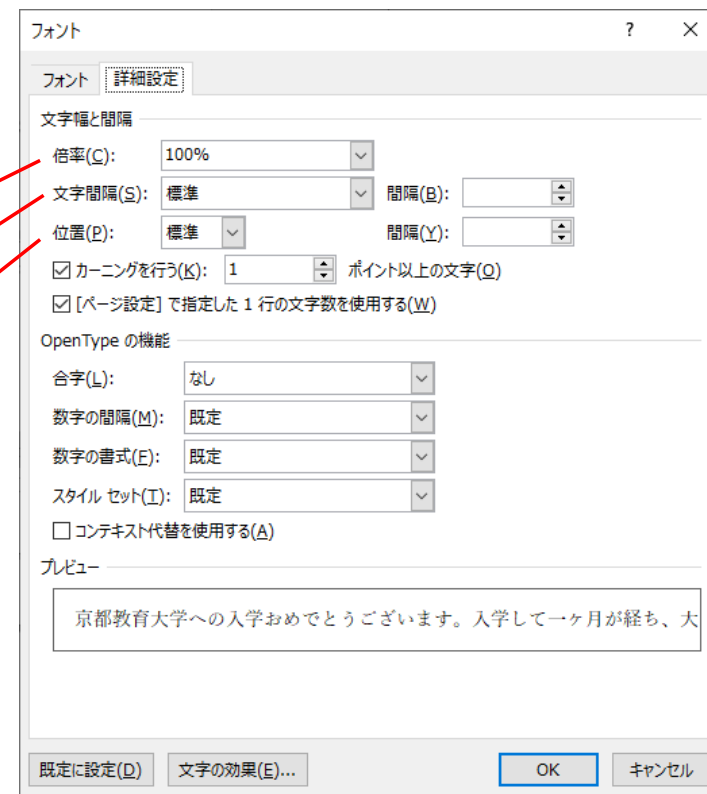
倍率 : 横方向のみ拡大縮小

文字間隔 : 字送り (文字と文字の間隔)

(注) 狭く a [pt] に設定すると、字送りは $2 \times a$ [pt] 小さくなる
フォントサイズの $1/2$ 以上の値に設定すると、字送りは 0
広く a [pt] に設定すると、字送りは $2 \times a$ [pt] 大きくなる

位置 : 上下方向のシフト

フォント用ウィンドウの「詳細設定」



フォント

文字は 2 種類ある

全角文字 …… ex. 漢字 ひらがな カタカナ

半角文字 …… ex. 1234 abcd !%#\$%

全角の数字（1 2 3 4）やローマ字（a b c）は原則として使わない

フォントには 2 種類ある

(a) 全角文字と半角文字の両方を含む ex. 游明朝

(b) 半角文字のみ ex. Century

日本語用のフォントとしては (a) を指定する

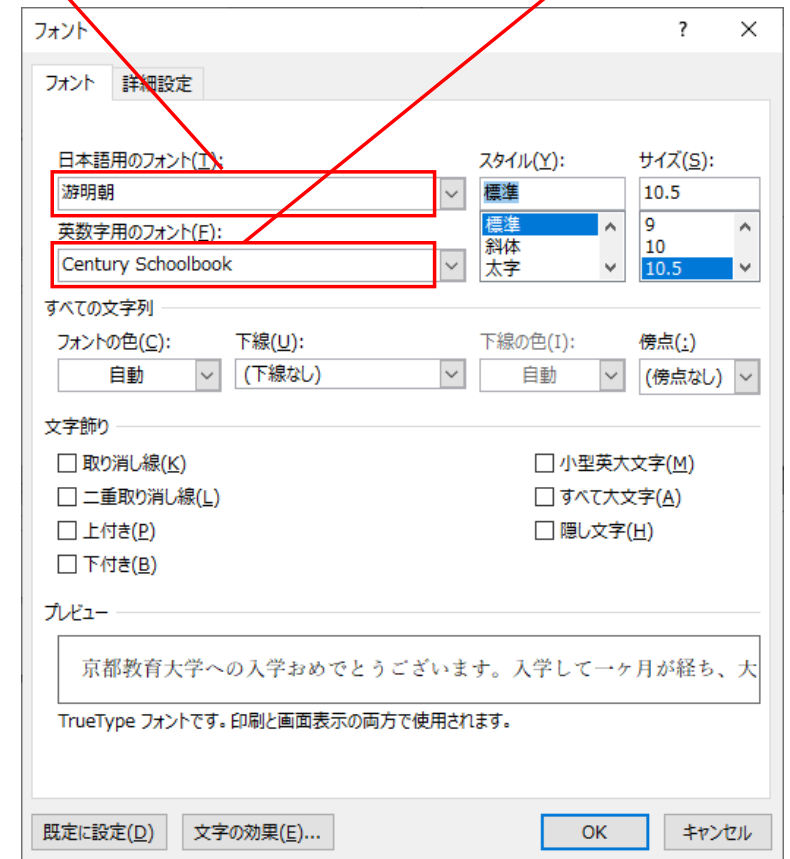
英数字用のフォントとしては (a) (b) のどちらでもよい

全角文字と半角文字の両方を含む範囲を選択して

「Century（半角文字のみ含む）」を適用すると、半角文字のみに適用される

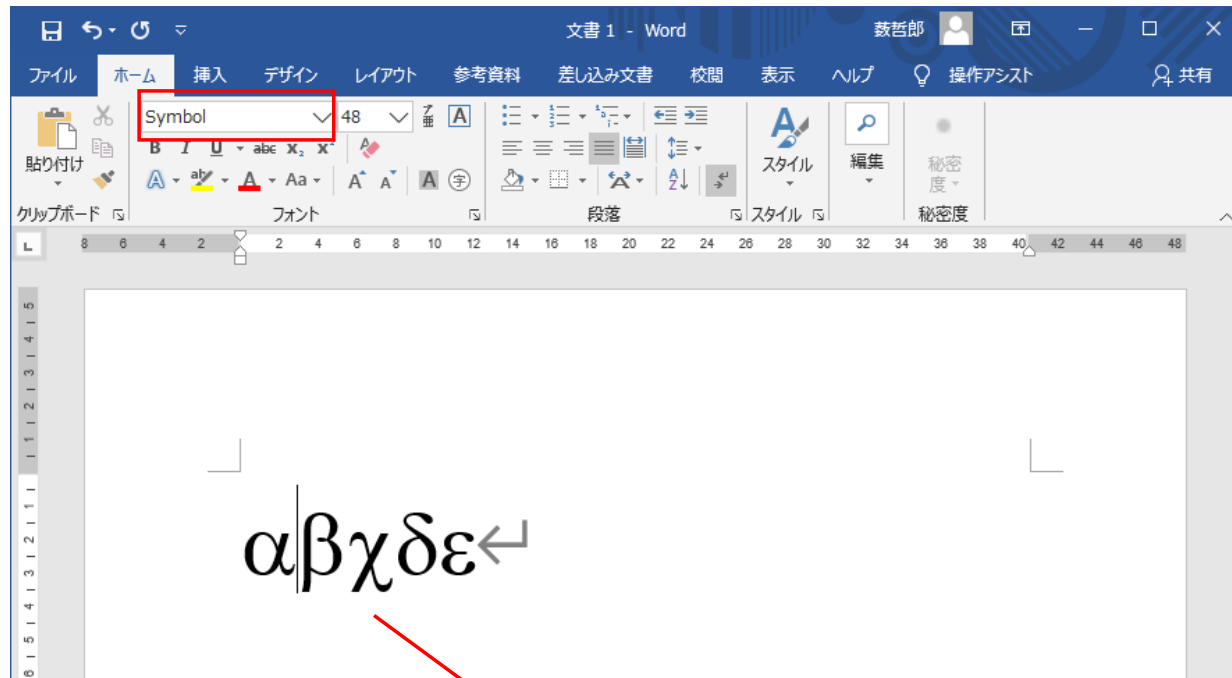
全角文字の
フォントを指定

半角文字の
フォントを指定



ギリシャ文字の出し方

ギリシャ文字の α を使いたいときは a と入力してフォントを Symbol に設定する



abcdeと入力している

英数字フォントについて

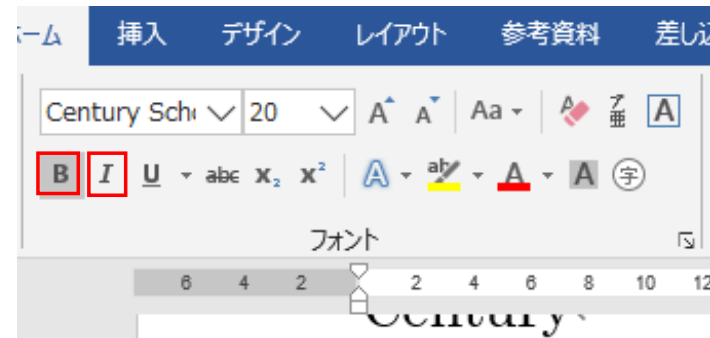
4書体ある

ローマン abcde

ボールド **abcde**

イタリック *abcde*

ボールドイタリック ***abcde***



B : ボールド (太字)
/ : イタリック (斜体)

英数字用フォントのボールド、イタリックは独自にデザインされている
(Century除く)

a は傾いているだけでなく、字体が異なる

	Century Schoolbook←
	←
ローマン	<u>abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789</u> ←
	←
ボールド	<u>abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789</u> ←
	←
イタリック	<i><u>abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789</u></i> ←
	←
ボールド イタリック	<i><u>abcdefghijklmnopqrstuvwxyz 0123456789</u></i> ←

日本語フォントについて

4つの書体は持っていない。機械的な処理が行われる

ボールド（太字）……文字の輪郭を太く書いてから中を塗りつぶす（唯一の例外：游ゴシック）
イタリック……座標変換をして傾ける。

日本語フォントのゴシック体のボールドは推奨しない

游明朝

ローマン	あいうアイウ	漢字	薔薇	憂鬱
ボールド	あいうアイウ	漢字	薔薇	憂鬱
イタリック	あいうアイウ	漢字	薔薇	憂鬱
ボールド イタリック	あいうアイウ	漢字	薔薇	憂鬱

游明朝のボールドが使いたいときは、アイコン B を押すのではなく
游明朝Demibold という
フォントに切り替えることを推奨する。ただし、操作は煩雑になる。

游ゴシック：4 書体ある
太い順に並べると

游ゴ

游ゴシックの
ボード体

游ゴ

游ゴシック
Medium

游ゴ

游ゴシック

游ゴ

游ゴシック
Light

游ゴ

MSゴシック

太い



細い

「游ゴシック」はボードにすると別書体に切り替わる唯一の日本語フォント
従来から使われてきた「MSゴシック」は「游ゴシックのボード」と「游ゴ
シックMedium」の間くらいの太さ

等幅フォントとプロポーショナルフォント

等幅フォント……全ての文字の横幅は等しい。日本語用フォントは等幅が原則

プロポーショナルフォント……文字によって横幅が異なる。英数字用フォントはプロポーショナルが原則。たとえばmは広くiは狭い。mmmmmmiiii。日本語用のプロポーショナルフォントは、漢字は等幅、ひらがなとカタカナはプロポーショナル

日本語は等幅が原則だが、「見出し」のように大きな文字で少ない文字数を組むとき、プロポーショナルフォントを使うと、間延びした感じを防げる。本文にプロポーショナルを使うと読みづらくなる。

MSゴシック 漢字は等幅 ひらがなも等幅 ぬめぬめくくくく

MSPゴシック 漢字は等幅 ひらがなはプロポーショナル ぬめぬめくくくく

使って良いフォント

ここからスライド24までは少しマニアックな話なので、読み流してよい

コンピューターは文字を文字コード（番号）で表している。たとえば a は 97 という番号がついている。この「a」は「文字コードは97番」「フォントは游ゴシック」「色は黒」「大きさは18pt」のような情報を持っている。

Aさんが作ったWord ファイルが「HGSゴシックM」というフォントを使っていたとする。そのファイルをBさんコンピューターのWordで開くとき、Bさんのコンピューターに「HGSゴシックM」というフォントが入ってない場合、正しく表示されない。

ゆえに、使うフォントは、だれもが所持しているフォントを使うべきである。

MS明朝 MSゴシック 游明朝 游ゴシック はWindowsにデフォルトで入っているフォントなので、使って良い。

HGで始まるフォント

MS-Office に付属するフォント

大抵のコンピュータに入っているので使って良い

HGゴシックM めめくくく 12345 等幅 全角1文字 = 半角2文字 バランス悪い

HGSゴシックM めめくくく 12345 等幅 半角は全角の 0.58 倍程度の幅 推奨

HGSゴシックM めめくくく 12345 平仮名プロポーションナル 半角はHGSゴシックMと同じ

HGゴシックE のように E が付くフォントは太い

HGSゴシックE の半角 (aaaaa) は全角 (あああああ) の 0.54 倍程度の幅

教科書体 丸ゴシック UDフォント

教科書体が必要なときはHGS教科書体を使う
HG, HGS, HGP の違いは HGゴシックM と同じ

教科書体と明朝体の字体の違い

教科書体	令	改	北	お
明朝体	令	改	北	お

丸ゴシックが必要なときは
HG丸ゴシックM-PRO

これからはUDフォントが急速に普及すると思われる。

UDデジタル教科書体N-R
UDデジタル教科書体N-B
UDデジタル教科書体NP-R ← 標準的
UDデジタル教科書体NP-B
UDデジタル教科書体NK-R
UDデジタル教科書体NK-B

N 等幅（半角は全角の半分）
NP 英数字はプロポーショナル
NK 英数字とかながプロポーショナル

R 標準
B 太字

ただし、Windows10 にしか付属しない
Windows8 は別途インストールが必要（無料）

英数字の等幅フォント

英数字はプロポーショナルが原則だが、コンピューターのプログラムリストだけは、等幅を使う。英数字の等幅フォントとしては **consolas** あるいは Courier New がある。consolasがポピュラーである。

Courierはタイプライターのフォントである。タイプライターは1字印字するたびに、ヘッドが等幅移動する。

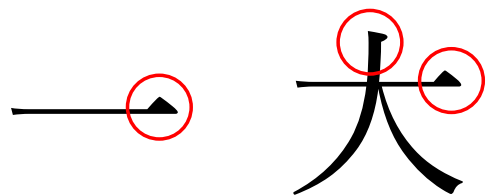
練習

スライド 9 で「タブとフォント」の上半分をやった。
下半分をやる。

フォントの組み合わせ方

フォントは2つのグループに分類される

セリフ …… うろこを持つ
線幅は異なる

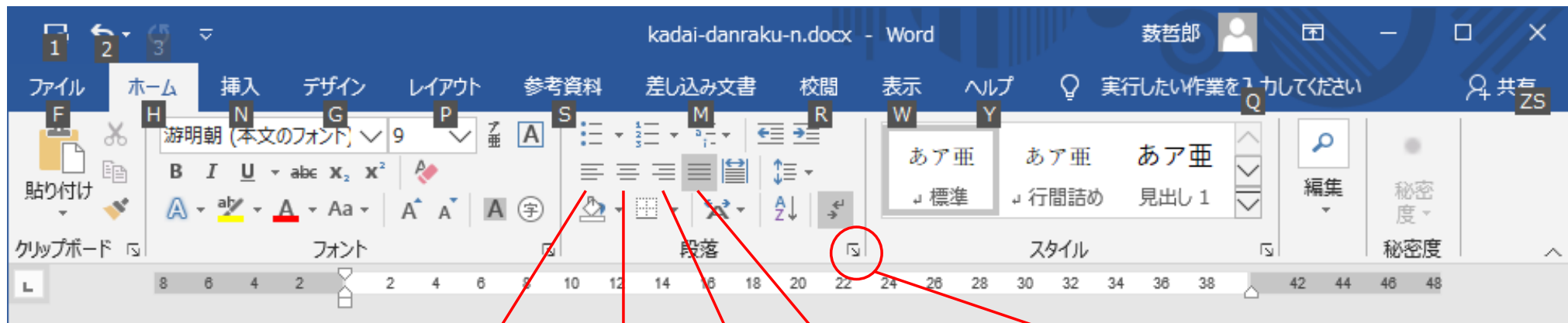


サンセリフ …… うろこを持たない
線幅は等幅



日本語用フォントと英数字用フォントは、セリフ同士、サンセリフ同士を組み合わせる

段落



左揃え

英単語がある場合など、
両端揃えでは間延びする
場合これを使う

中央揃え

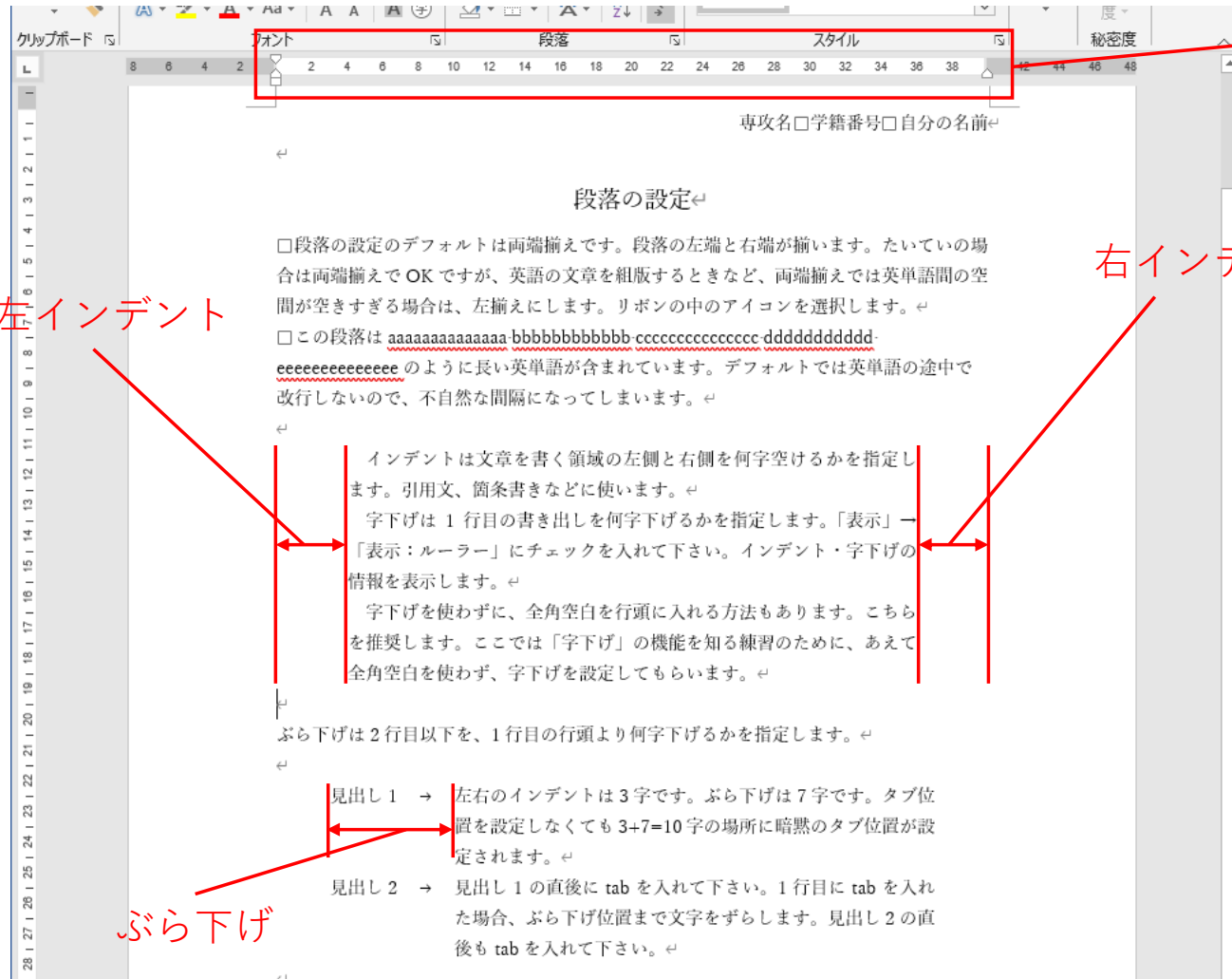
右揃え

両端揃え

通常はこれを使う

詳しい設定画面へ

インデントと字下げ、ぶら下げ



字下げ、インデントなどの設定はルーラーで確認できる

段落の詳しい設定1

段落

インデントと行間隔 改ページと改行 体裁

全般

配置(G): 両端揃え

アウトラインレベル(O): 本文 既定で折り返し(E)

インデント

左(L): 0字 最初の行(S): 幅(Y):

右(R): 0字 (なし)

見開きページのインデント幅を設定する(M)

1行の文字数を指定時に右のインデント幅を自動調整する(D)

間隔

段落前(B): 0行 行間(N): 1行 間隔(A):

段落後(E): 0行

同じスタイルの場合は段落間にスペースを追加しない(C)

1ページの行数を指定時に文字を行グリッド線に合わせる(W)

プレビュー

前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落

あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™

次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落

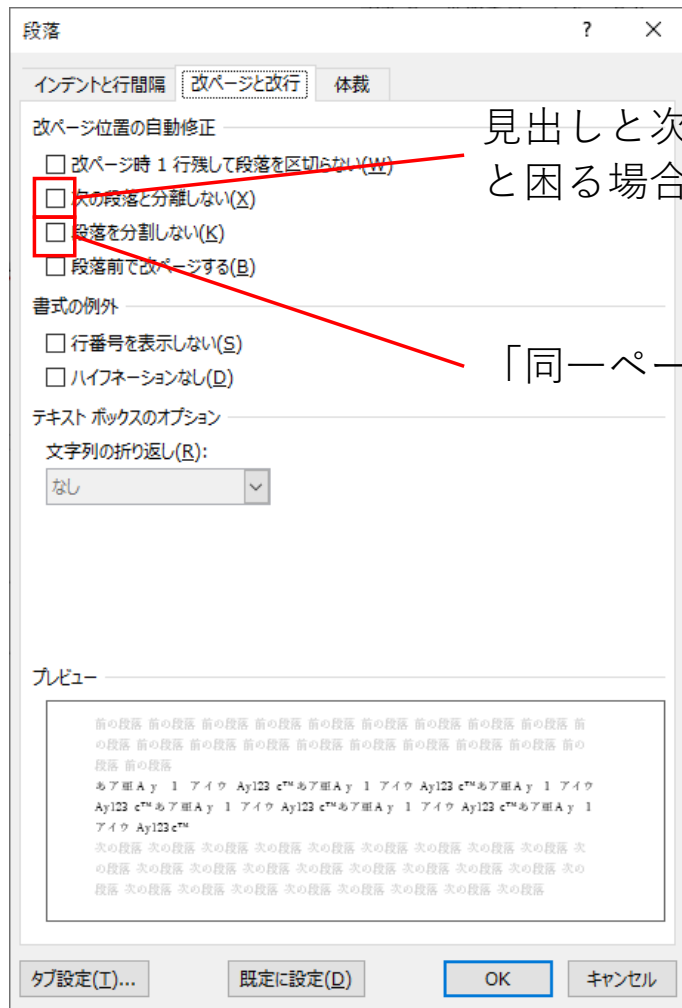
タブ設定(I)... 既定に設定(D) OK キャンセル

空行を入れるのに比べると、以下の点で勝る

1. その段落がページの先頭にくる場合、段落前の空行は無視される
2. その段落がページの終末にくる場合、段落後の空行は無視される
3. 「同じスタイルの場合は段落間にスペースを追加しない」を設定できる

大きな文字があると、それに伴って行間が空く。これを防止するには「固定値」を選ぶ

段落の詳しい設定2



見出しと次の段落、図とキャプション、表などページをまたぐと困る場合にチェックを入れる

「同一ページにまとまるべき段落」に用いる

段落の詳しい設定3

段落

インデントと行間隔 改ページと改行 体裁

改行時の処理

禁則処理を行う(U)

英単語の途中で改行する(W)

句読点のぶら下げを行う(N)

文字幅と間隔

行頭の記号を 1/2 の幅にする(C)

日本語と英字の間隔を自動調整する(E)

日本語と数字の間隔を自動調整する(S)

文字の配置(A): 自動

オプション(O)...

レビュー

前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落
前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落 前の段落
前の段落
あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ
Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1 アイウ Ay123 c™ あア甲A y 1
アイウ Ay123 c™
次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落
次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落
次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落 次の段落

タブ設定(I)... 既定に設定(D) OK キャンセル

- 両端揃えにすると単語間が空きすぎて見苦しいときチェックを入れる
- 行末に空白があり、右揃えのとき空白は無視される。
空白を利用して文字位置の右端を揃えたいときチェックを入れる

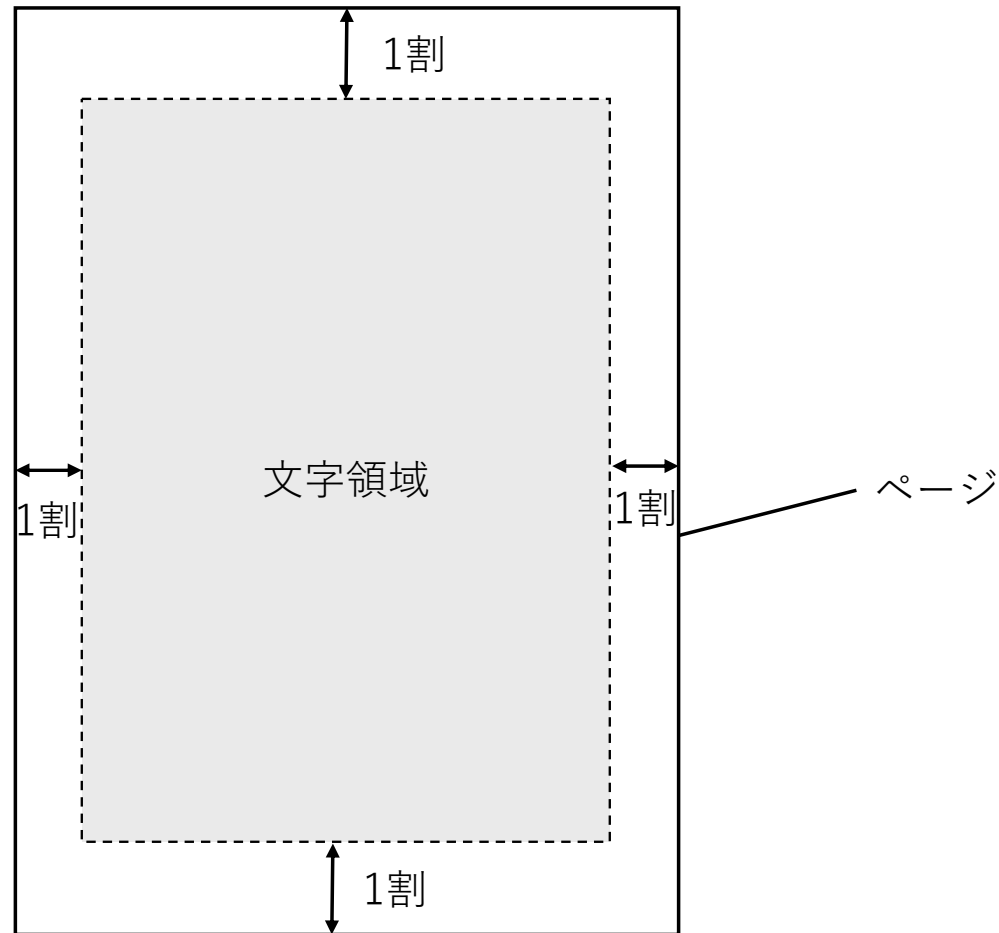
例えば、段落の中に 1 個だけ大きな文字が含まれている場合、どのように揃えるかを定める。
デフォルトの「自動」は「下揃え」になる
中央揃え」にすると良い場合が多い

練習

☆ 段落 練習 (pdf) の指示に従って練習をする。

練習なので提出不要です。

レイアウトの考え方

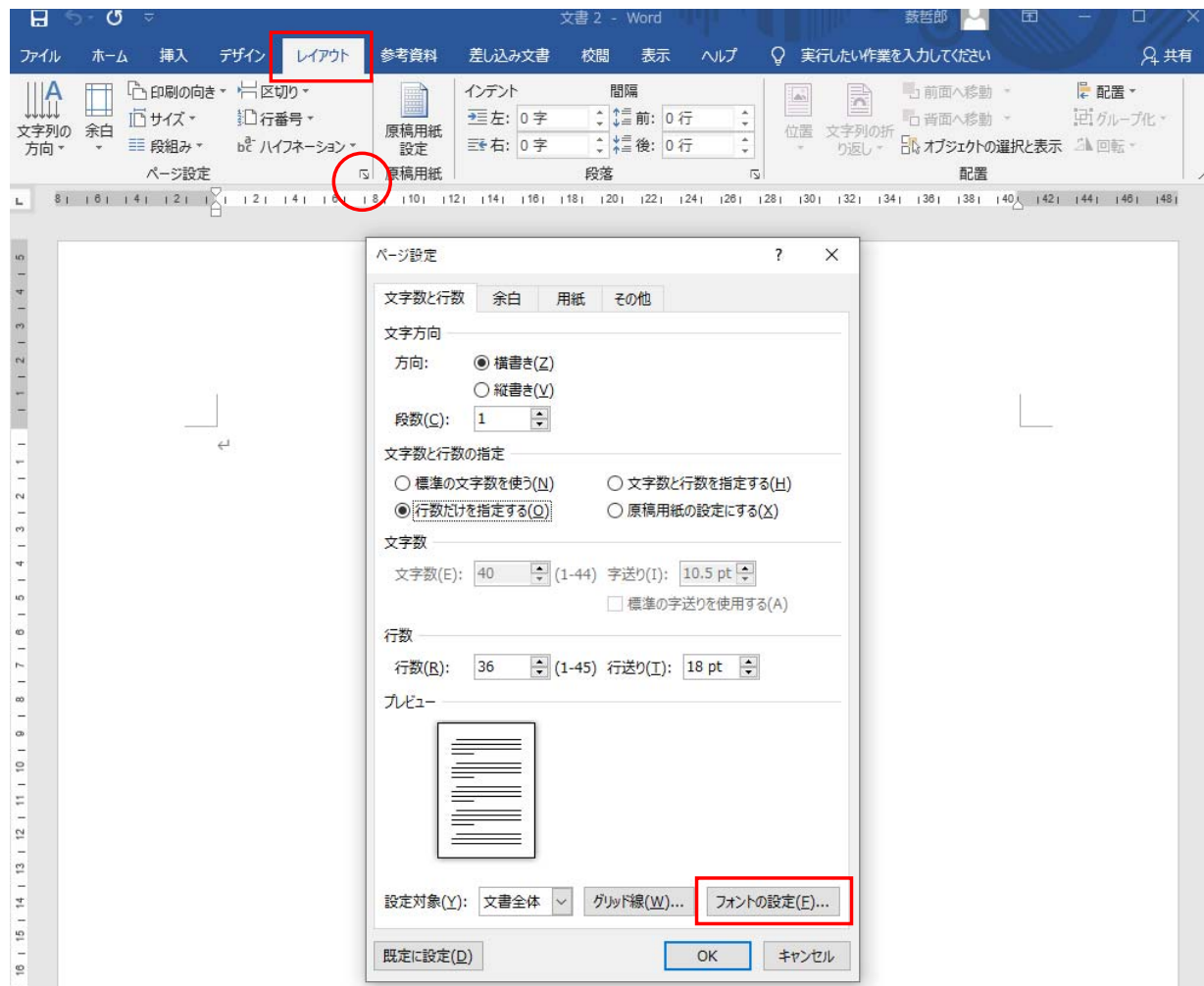


縦・横方向の長さの1割程度のマージンをとると良いと言われている。

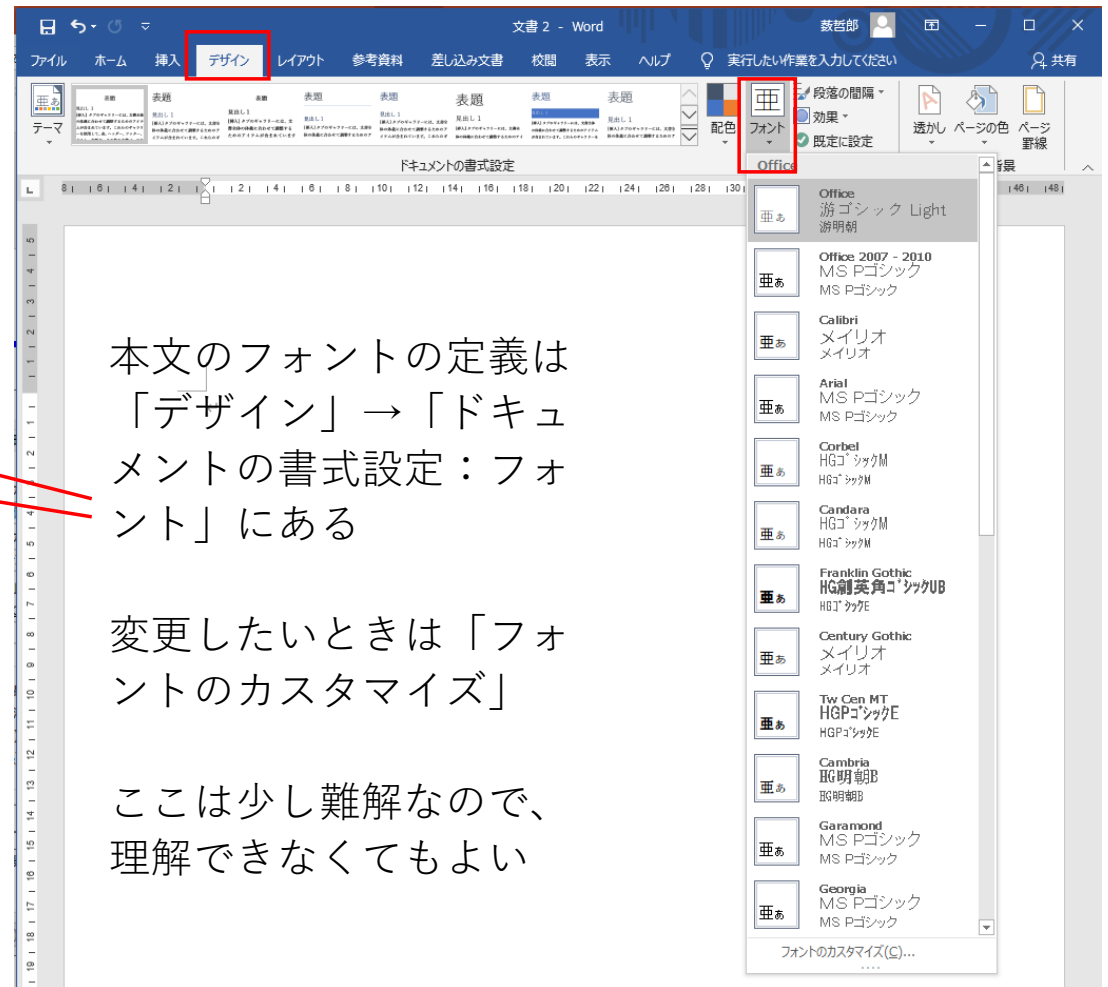
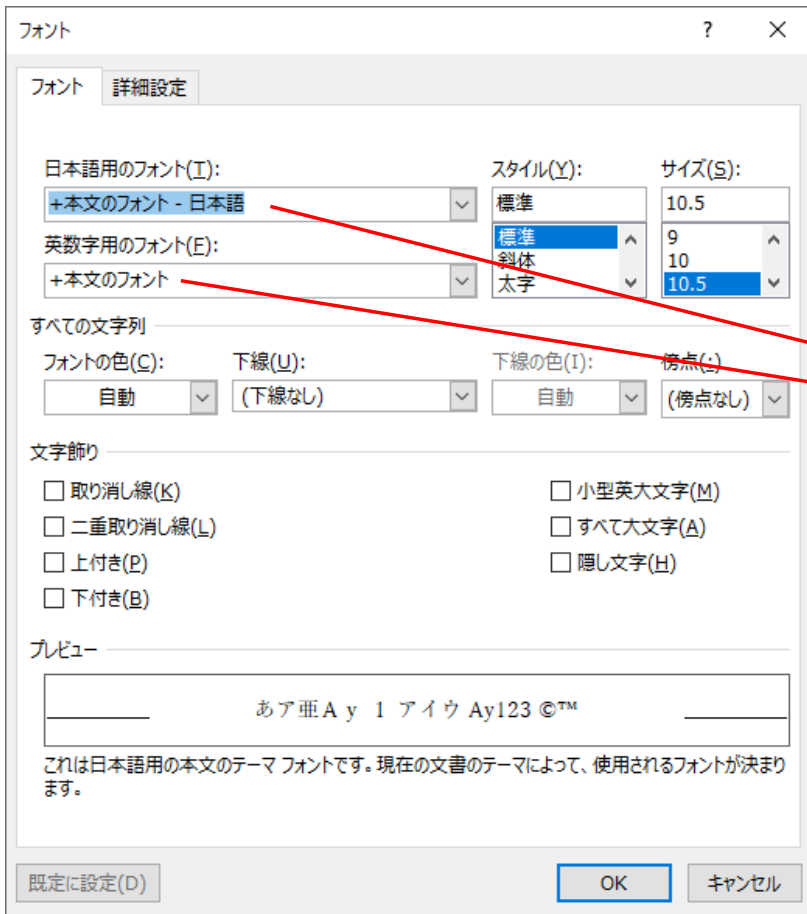
版面率は $0.8 \times 0.8 = 0.64$ である。

ページ数を節約しようとして、ページ一杯に文字領域をとると、圧迫感があるページになってしまう。

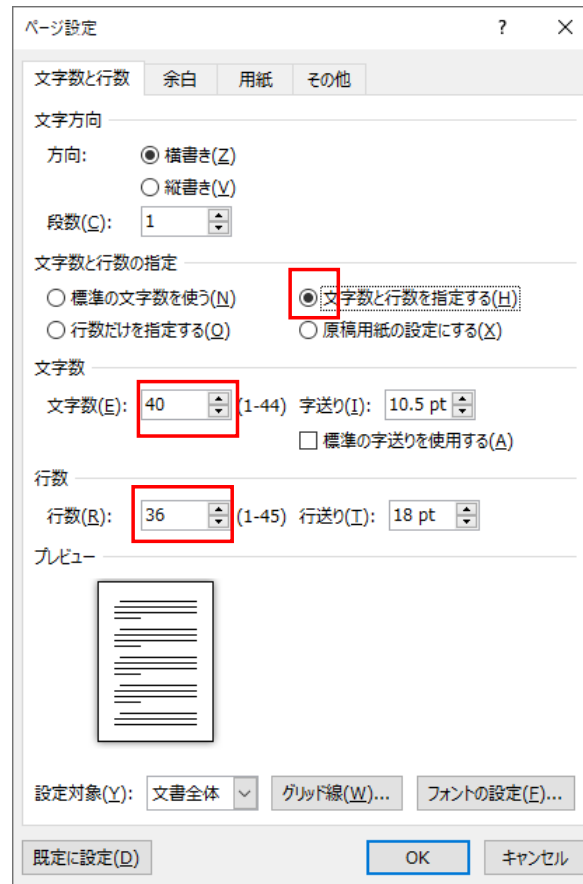
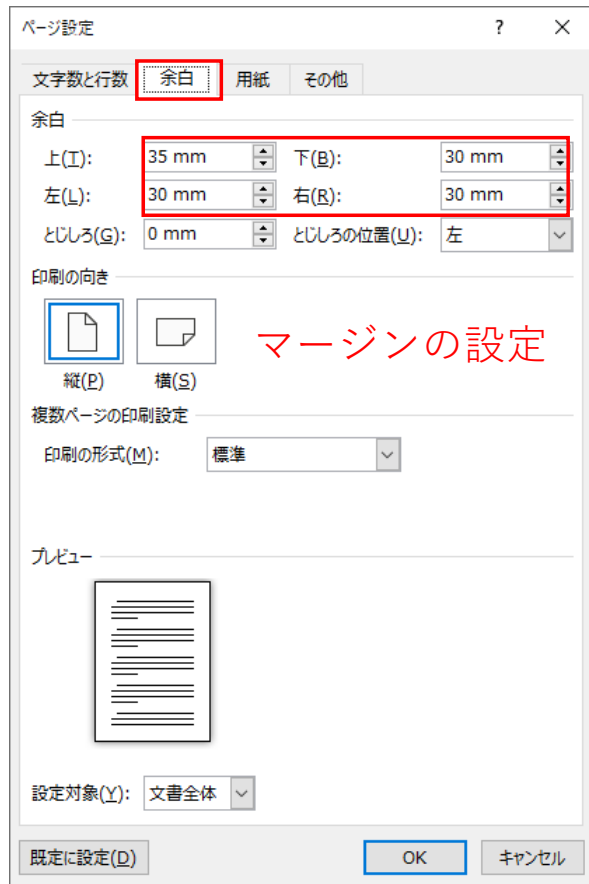
ページ設定



フォントの設定



文字数と行数の設定



- (1) 文字数と行数を指定するにチェック
- (2) 左右の余白を設定する
- (3) 文字数を設定する。「字送り=フォントサイズ」とならない場合 (2) にもどる

※ 標準の字送りを使用するにチェックを入れて文字数を指定すると「字送り=フォントサイズ」となり、右余白は自動設定される。右余白と左余白が異なり、バランスが悪い。

- (4) 上下の余白を設定する
- (5) 行数を設定する。行送りは整数が望ましい（行間固定値にすると、設定しやすい）。整数でない場合は (4) にもどる。

字送り = フォントサイズ にする
字送り > フォントサイズ は間延びした感じになり、読みづらい。

行送りはフォントサイズの 1.5 ~ 2.0 倍
1 行の文字数が多くなるなど、行間は広くとる。